

今週のセルグループ(赤字)		8月16日(日)~8月22日(土)	
セル(リーダー)	次回の日時	場所	前回の証しなど
リバイバル 北山姉	8/16(日) 礼拝後	LINE 電話	8/10 3名 子どもとして見て下さっているという視線に支えられています。
グレイス 鈴木千姉	8/21(金) 午後8:30	鈴木宅	8/7 4名 食事の交わりをしました。
Gospel 鈴木尚姉	8/29(土) 午後1:00	鈴木尚宅	8/2 2名 大好きなお父さんである神様を見上げるだけ。愛されている。他のことはどうでもいい。
オイコス 磯貝姉		LINEで 分かち合い	8/9 9名 今の現状を喜べない自分は神様に敵対している事を悟りました。
からし種 磯貝姉		LINEで 分かち合い	8/9 3名 神様からのビジョンに生きなくてはいつまでも悶々としてしまうと示されました。
ユース 岩下兄	8/30(日) 午後1:00	LINE 電話	8/9 5名 主に希望をおいて生きることを示されて慰められた。
Rock 鈴木洋兄	8/19(水) 午後8:30	鈴木宅 交わり	7/29 4名 いつも主が自分の仕事振りをご覧になられている。意識する時、手を抜こうから守られる。
シャローム 平岩姉	8/22(土) 午前10:00	平岩宅	8/8 3名 お互いのために祈りあいました。
なつめやし 高橋智姉	8/16(日) 練習後	高橋宅	8/2 2名 各自祈りの時としました。
リジョイス 杉本姉	8/18(火) 午前10:15	赤塚宅	8/4 2名 主を敬う心があるのは、大好きであるから。
ジョイフル 穂刈兄	8/21(金) 午後9:00	Zoomで 分かち合い	8/6 5名 痛みの中で祈る機会が多くなり感謝します。
アガペ 長塚姉	8/23(日) 練習後	コミュニティ センター	8/9 4名 交わりの時を持ちました。
サクセス 鈴木勝兄	8/23(日) 礼拝後	交わり	8/9 10名 自分を変えて認められようとしていた。祈禱会で求めていた答えが与えられて変えられた。
リーダーズ セル	8月はお休み	Zoomで 分かち合い	7/8 21名 一人一人のためにお祈りしました。
セル研修	休講		
ビジョン 平岩恵兄	毎日曜日 午後1:00	コメダ	8/9 4名 答えは、主を敬うことの一辺倒な生活の中で与えられると教えられた。
worship 長塚寛兄	中止		
中学生 梅田姉	中止		
キッズ2 小山姉	中止		
キッズ1 芳井姉	中止		
Shine 小原姉	8/22(土) 午後6:30	エステル	8/8 3名 神様が必ず前進させてくださると信じて進んでいきます。
ギデオン 芳井兄	8/22(土) 午後6:30	芳井宅	8/8 3名 主に信頼していなかった。それをはっきりと悔い改めた。
カルバリ 野田兄	8/18(火) 午前9:00	野田宅	8/4 5名 聖書を読んだり、祈っていれば信仰があると勘違いをして生きていた。
神の家族 伊岐見真姉	8/23(日) 午後7:30	LINE 電話	8/9 2名 本当にやりたくなかった。今はやりたいことに変わっています。

礼拝奉仕	聖日礼拝		祈禱会		
	司会	奏楽		奏楽	
今週	8/16(日)		鈴木千姉	8/20(木)	鈴木千姉
			開始時間 午前10時		
来週	8/23(日)		鈴木尚姉	8/27(木)	鈴木尚姉
			開始時間 午前10時		

※ 8/18(火)のバイブルスタディは休講になります。

※ 8/19(水)の浜松バイブルスタディは休講になります。

祈りの課題

- ・人々の救いを覚えて
 - ▶ 家族知人をキリストへ
 - ▶ 教会近隣の人々の救い
 - ▶ 東海地方の救いのために
 - ▶ 日本の救いのために
 - ▶ 世界の救いのために
- ・働きを覚えて
 - ▶ バイブルスタディの働き
 - ▶ リバイバルクワイヤーの働き
 - ▶ リバイバルママズの働き
 - ▶ 那古野アウトリーチの働き
 - ▶ 祈禱会の祝福
 - ▶ 日曜礼拝の祝福
 - ▶ 牧師の働き
- ・ギデオン協会の働きのために
- ・セルグループの祝福
 - ▶ LIG人生変革グループの祝福
- ・プレーヤーハウス獲得のために

聖日礼拝 (日曜) (第一) 午前 9:00~10:30
(第二) 午前11:00~12:30

キッズセル(子供礼拝) (日曜) 午前 9:00~10:30

日曜礼拝バイブルスタディ (日曜) 午前11:00~12:30
☆第一礼拝に出席してから、ご参加下さい。

バイブルスタディ (第1、第3火曜) (昼) 午後 1:00~ 2:30
(夜) 午後 7:00~ 8:30

祈禱会 (木曜) 午後 7:00~ 8:30

特別早天祈禱 (土曜) 午前 6:00~ 7:00



主の御手 週報

NO.1308

2020年8月16日(日)発行 8月第3週

私たちのビジョン [宣教] 主の御手が彼らとともにあったので、
(使徒の働き11:21) 大ぜいの人々が信じて主に立ち返った。

日曜礼拝

開始10時

- ・讚美
- ・祈り (祈りの姿勢をおとり下さい。)
- ・メッセージ
- ・祈り
- ・神への感謝 (集会感謝の献金があります。ご意志で自由にどうぞ。)
- ・主の祈り (初めての方はスクリーンをご覧になってどうぞ。)
- ・連絡

お願い

- (1) 礼拝後は、必ずコイノニアルームなど、室内にお入りください。道路上にとどまることがないようにお願いします。
- (2) また、必ず一度は、コイノニアルームに立ち寄りをお願いします。重要なお知らせなどがあります。

今年のテーマ [感謝] すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。(テサロニケ人への手紙 第一5章18節)

日曜日は教会へ



主の御手がともにある

名古屋バイブルチャーチ

〒451-0042 名古屋市西区那古野2-20-19
TEL 052-587-5060 FAX 052-587-5061 牧師 中西幸輝

もっと自由に生きられる



「箴言 29：25 人を恐れると罨にかかる。しかし、主に信頼する者は高い所にかくまわれる。」

人の目が気になる

7月は、豪雨のニュースが連日のように報道されていました。熊本県や岐阜県、山形県など、全国各地で豪雨による被害が出ました。そんな中、山形県の豪雨では、県内を流れる最上川が何か所にもわたって氾濫し、住宅などの被害は出たものの死者、行方不明者は一人も出ませんでした。それは自治体の迅速な対応によることでした。町の担当者は、「最上川は急流で、熊本の球磨（くま）川とよく似ている。球磨川が氾濫したのを見て『ここも同じではないか』と思った。そう思ったとき、早めの避難指示を出すことを決断した。もしかしたら、後から怒られることになるかもしれないが、それでもいいからとにかく指示を出そうと思った。」と当時のことを振り返って話していました。この判断が功を奏して、住民の多くの命が守られました。もし担当者が、「住民を避難させて何も起こらなかったときに、『避難指示を出さなくてよかったじゃないか』と言われたらどうしよう」と思い、住民からの視線を気にして判断を躊躇していたら大惨事を引き起こ

していたかもしれません。

わなにかかっている

今、テレビをつけますと、毎日コロナウイルスの感染者の発表のために各都道府県の知事が会見を開いています。そして、知事が記者たちの質問を受ける時間があります。多くの知事または政府の会見では、記者からの質問に答えるために想定問答集というものがあらかじめ用意されています。担当者が事前に、新聞やテレビの記者を訪ね、質問の内容を収集します。そして他にも想定される質問を自ら考えて用意します。しかし、その膨大な時間を費やして準備された問答集のほとんどは使われることなく、紙くずと化していきます。

その中で、大阪府の吉村知事の記者会見の様子は、他とは全く違い、想定問答集と呼ばれるようなものは一切ありません。記者から受ける質問に、自分の言葉でわかりやすく答えています。このスタイルは、元大阪府知事の橋下徹氏が始めたのをきっかけに、今も続いています。橋下氏は、この想定問答集が周到につくられていることについて、「『知事が答えられなかったら恥だ。』とか『間違っただけを言ったら大変なことになる』と考えられているからだ。」と指摘しています。

私たちも人からの評価を恐れるあまり、「きちんと正しく行わなくてはいけない。そうでないと周りから何を言われるか分からない」ということばかりに心が向いていると、「批判されたいためにはどうすれば良いだろうか」ということが行動の基準となっ

ていきます。例えば、人から任された仕事を正確に効率よく、かつ喜びをもって行きたいと本心では思っているはずなのに、「ちゃんとやっていないと、またうるさく言われてしまう。ここまでやっておけば言われなくて済むだろう」というような行動となっていく。すると、仕事だけではなく生活のすべてにおいていつも人の評価を気にした行動となり、わなにかかった状態になって抜け出せなくなってしまう。

主はどのように見ておられるのか

私たちは、人の目から見て自分がどう見られているかではなく、「神様の目から見て私はどう見られているのか」ということに心の目が向けられている必要があります。主は「わたしはあなたのことを、世の造られる前からずっと知っているし、今までずっとあなたのことを気にかけてきた。そしてあなたのことを愛している」という目で見ておられます。

例えば、仕事でミスをして周りの人に迷惑をかけてしまった時、人の目を気にすると、「きっとあの人は、私のことをできなかったという目で見ています」となります。しかし神様の目は、「あなたはできなかったかもしれないが、そのことであなたを愛さなくなることはない。変わらずあなたを愛している」という目で見ておられます。私たちがそのとても大きな主の愛を受け取る時に、「できていない自分が恥ずかしい」とか、「私はもっと正しく生きていかないといけないのだ」といった思いはすべて払拭（ふっしょく）されます。主は、私たちのことを自分の「子ども」として見ておられます。「パパはいつも君のことを見ている

し、いつも近くにいる。安心して好きなことをすればいいんだよ。パパはいつでも君の味方だよ。」という視線が私たちに注がれています。そのことを知る時、私たちは神様から見られていることが嬉しくなります。そんな神様のことを愛したいと思うようになります。無条件で一方向的に愛し受け入れてくれるその愛に突き動かされるように、神様を愛したい、そして周りの人をも愛したいという思いへと変えられていきます。

もっと自由に生きられる

主の視線をずっと感じて生活するときに、私たちは心にあった人からどう思われるだろうかという視線から解放されます。

ダビデは、契約の箱が町に運び込まれてきたとき、大勢の人が見ている前で、裸同然の格好で、喜び踊っていました。その様子を高いところから眺めていた妻のミカルは、蔑（さげす）んだ目で見ていましたが、ダビデは「私を選んでくださった主の前で、私は喜び踊るのだ。」と言いました。私たちの心が全く主に委ねられているとき、心には「主がご覧になっておられる」という喜びであふれ、私たちの心は守られます。どんな人の前でも大胆に出ていくことができます。私たちは主にあって自由にされることを感謝します。